



会報

会報 第9号

平成29年4月発行

内藤恒雄駿河半紙技術研究会会長

三度目のドイツ訪問の活動報告

去る九月二三日から十月七日の十五日間、「ドイツベルリン技術博物館」の招請を受け、『日本の優れた手漉き和紙技術』実演のためベルリンを訪問しました。三度目となる今回の渡独には、「駿河半紙技術研究会」の助成を頂きました。

今回の訪問は、各受け入れ側の皆さまのご厚意により大成功でした。企画も時機を得た内容だったと思います。

ドイツ滞在中は、博物館のゲストハウスを利用させて頂きました。前回の二〇〇〇年と同じ五〇五室で、ベルリンに戻ってきた感覚でした。冷蔵庫も新しく設置され、飲み物や食料品を保存できるので、自室での食事が前回より充実しました。

今回特にお世話になった四名の方々に、感謝とお礼を申し上げます。

- ガンゴルフ・ウルブヒト様
- ドイツベルリン技術博物館

副館長 ヨゼフ・ポツペ様
 ベルリン日独センター文化部長 河内彰子様
 駿河半紙技術研究会 小川貴士事務局長

次に、今回のドイツ訪問での主な活動を報告します。

◎ガンゴルフ・ウルブヒト氏のアトリエで二回のワークショップ開催

◆一回目のワークショップ

- 九月二六日：六名参加
 - 九月二七日：六名参加
 - 九月二八日：五名参加
- 参加者：手漉き紙制作者・紙布作家・修復家・製本家
- 内容

- 「こうぞ煮熟」「アク抜き」「キズヨリ」「手打ち」「プレス」「板干しによる紙貼り」
- 紙漉きのサイズは 300×420、300×800、600×990(寸)の三種類
- 箕桁は一九九八年来日したガンゴルフ氏が収集した道具

- 手漉き和紙制作の「流し漉き技法」の汲みこみの難しさを、体感して頂きました。
- 持参した手漉き和紙の説明

◆二回目のワークショップ

- 十月四日：二名参加
 - 十月五日：三名参加
- 参加者：修復家・製本家・書家
- 内容

- 「キズヨリ」「手打ち」「プレス」「板干しによる紙貼り」
- 紙漉きのサイズは 300×420、300×800、600×990(寸)の三種類
- 手漉き和紙制作の「流し漉き技法」の汲みこみの難しさを、体感して頂きました。
- 持参した手漉き和紙の説明



◎ベルリン日独センターでの講演会および展示会

◆講演会

会場の定員を超える二〇〇名以上のご参加を頂き、椅子が足りなくなつたそうです。大変な、盛り上がりでした。ご説明した十二項目を明記します

- ① 二〇一四年十一月「和紙・日本の手漉き和紙技術」ユネスコ無形文化遺産登録記念「内藤恒雄手漉き和紙独立四〇周年」記念し ドイツ訪問を企画
- ② 紀元前中国で紙が発明され、日本へは朝鮮半島を経て六世紀頃伝承され、九世紀頃、粘剤（トロロアオイ等）を使う事を考案し「流し漉き技法」を確立
- ③ 世界中で手作業の紙が作られている訳ですが、日本の手漉き和紙の品質は世界一と考えます。それは日本の匠が特に優れているのではなく、地球上における日本の緯度・経

- 度に関係するのではないかと思います。こうぞ・みつまたは東南アジアに広く分布している訳ですが、四季のあるお蔭で日本産の品質は一番だからです。用水が大事。欧州は硬水、日本は軟水、特に富士山の伏流水はより新鮮。（硬水だと 粘剤トロロアオイは効かない）
- ④ 内藤恒雄の手漉き和紙の作り方「木の皮こうぞ・みつまた」「煮熟」「あく抜き」「生成」「キズヨリ」「打解」「叩解」「ナギナタ」「粘剤」「流し漉き」「プレス」「板干し天日乾燥」各工程の説明。
- ⑤ 日本国内の手漉き和紙制作者の推移
平成 五年…四四〇軒
平成十五年…三〇〇軒
平成二五年…一六〇軒
- ⑥ 国内での流通は和紙問屋さんが全てを仕切っていて、制作者自体では売れなかつた。
- ⑦ 私は制作と販売を行っており、最初はステイショナ

- リー中心で県内都内の小売店販売だった。
- ⑧ 並行して、手漉き和紙に関心があり、手漉き和紙を使う美術家を選び出して販売。
- ⑨ 今回のドイツ訪問に際しベルリン日独センター・ドイツ国立ベルリン技術博物館、ガンゴルフ・ウルブヒト様に御礼と感謝。
- ⑩ ドイツ訪問は、今回で三回目、一回目一九九一年、二回目は二〇〇〇年
- ⑪ 今後とも世界に誇れる手仕事「手漉き和紙」のスバラシさを説明していきたい。
- ⑫ 展示会（センターのロビーで開催）前回の二〇〇〇年の時も、見本として自分の手漉き和紙を持参したのですが、ガンゴルフ氏のお取引先の版画家を訪問した際、全てお買い上げ頂いたため、一般の方に見て頂けなかつた事が残念でした。しかし今回は、無事に展示会を開催でき安堵しました。

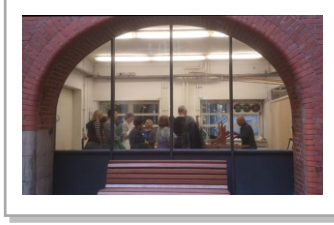
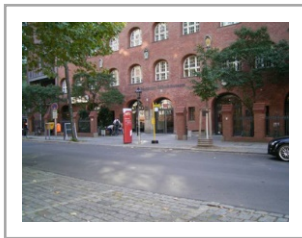
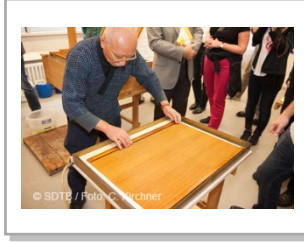
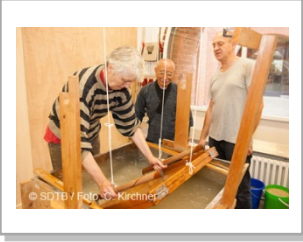


産がんびを使用した手漉き和紙など十二点を展示し、ご説明いたしました。鉄板乾燥機を使用すると、こうぞ紙などは「ケバチ」が気になるのですが、板干しだと、そういう事はなく「ツルツルとした」感触があります。特に「板干しによる天日乾燥」「薬品漂泊ではなく生成」を強調しました。

◎ドイツベルリン技術博物館
で手漉き和紙の実演会

九月二十九日〜十月一日の三日間、延べ十四時間にわたって実演会を行いました。

最初に、私が見本を見せ、参加者に広く体感を呼びかけました。手漉き和紙制作の「流し漉き技法」の「汲みこみ」の難しさを体感して頂きました。前回の二〇〇〇年の時は、技術博物館二階の欧州の手漉き紙のコーナーの奥でしたが、今回は、一階の中庭の奥で、見晴らしが良い部屋で、沢山のお客様で盛況でした。



◎ガンゴルフ氏の新しいアトリエ (ドイツ北部) 訪問

十月一日：ベルリン技術博物館での実演会を終え、タクシーでベルリン中央駅へ、中央駅から三時間弱でグライフスヴァルト駅に到着。そこから、ルドヴィクブルクのガンゴルフ氏の住まいに到着。

十月二日：ルドヴィクブルク住まい近くを散策。ブイク港 散策。グライフスヴァル



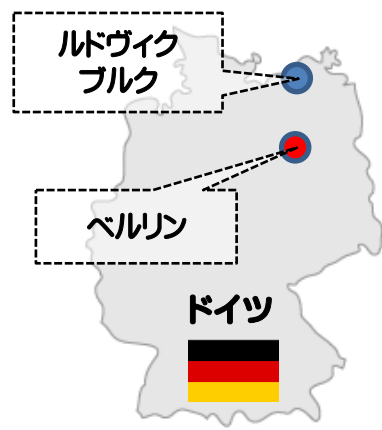
トのプラザでりんごジュースの作成を見学。

十月三日 (ドイツ国民祝日)：午前中は森林散策。その後、ルドヴィクブルクを車で出発し、ベルリン技術博物館到着。

ガンゴルフ氏の新しいアトリエは、古民家をワークショップが出来るアトリエとしてリフォームする計画です。ルドヴィクブルクは、静寂でステキな空間でした。

◎その他・余談

- 東京新聞・産経新聞・ベルリンTV局の取材を受けました。
- 今回は、ベルリンでご活躍の多くの日本人にお会いしました。



● ベルリンマラソン、ベルリン大聖堂、シユプレー川遊覧船、国立美術館を楽しむ。

● 新しい出会いがあり、条件が整えば、再度ベルリンを訪問したいと思いました。

駿河半紙技術研究会

『第三〇回ふじのくに地域文化活動奨励賞』受賞

駿河半紙技術研究会は、去る三月四日に、静岡市駿河区のグランシップに於いて、『第三〇回ふじのくに地域文化活動奨励賞』の表彰を受けました。この賞は、静岡県文化財団（鈴木寿美子理事長）により、県内各地で地域活性化に貢献する優れた文化活動に取り組む文化団体を、表彰するものです。平成二八年度の応募総数は、二九団体あったそうです。

受賞団体

地域文化活動賞

- ・ 静岡県童謡の会
- ・ K's pro.

● 今後とも日本独自で世界に誇れる「手漉き和紙」のバラシサを説明していきたい。

今回の渡独には「駿河半紙技術研究会」の皆さんの後押しがあり、大変感謝しています。

地域文化活動奨励賞

- ・ 駿河半紙技術研究会
- ・ 浜松スイングバンド
- ・ 静岡浪曲愛好会
- ・ 梅園ジャカラング遊歩道を美守る会
- ・ 地域文化活動努力賞
- ・ 磐田ジュニア
- ・ ホステリングクラブ



第六回 和紙文化講演会

増田 勝彦の軌跡 その二

去る十一月十二日、昨年引き続き増田勝彦氏による和紙文化講演会が開催されました。今回は『和紙に関して』文書に

使われる紙と、修復に使用する紙』という題目でした。和紙研究の第一人者であり、数々の文化財の修復を手掛けてきた増田氏が、これまでの調査や研究を多数の写真や図で、今回も私たちに分かりやすく説明して頂きました。講演会終了後は内藤会長による、渡独報告もありました。

